

中野正剛 なかの まさたけ 政治家。明治十九年二月十一日福岡縣生れ、昭和十八年十月二十六日歿（八六―一九四三）。初名甚太郎。號戎蠻馬、浩堂、耕堂、耕堂迂人。明治四十一年早稻田大學政治專攻科卒。東京日日新聞社入社も程はく東京朝日新聞社に轉ず。大正九年衆議院議員（當選八回）、昭和四年遞信政務次官。十年東方會（うち東方同志會）を結成し、南進論、自獨伊（二國同盟等）を提唱。戰時中東條英機打倒工作を劃策して逮捕せられ、釋放後、割腹自殺。詩人中野秀人の兄。

著書 『八面鋒―朝野之政治家』（明治四十四年十月十三日博文館）、

『七橋八縱―與ふる書十篇』（大正二年五月十三日東亞堂書房）、『講

和會議と自撃と』（大正八年七月二十三日東方時論社）、『國民公

訴ふ』（昭和四年四月五日平凡社）、『沈滞日本の更生』（昭和六年

八月一日千倉書房）、『國家改造設計書綱領』（昭和八年十月二十八日

千倉書房『東方會叢書』）、『帝國の非常時斷とて解消せず』（大阪

毎日新聞社編、昭和九年三月十三日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社

『大毎講座』）、『第六十五回 帝國議會代表雄辯集―附・各國大臣答辭』（合

著、昭和九年二月二十一日日本講演通信社）、『昭和維新と官僚政府

の役割』（昭和十一年八月十八日秀光書房）、『危機線上の自支』（田

知花信量・徳富蘇峰合著、昭和十一年九月二十七日東京日日新聞發行

所・大阪毎日新聞社）、『積極擴大主義の危険性と合理性』（昭和十

二年三月五日東大陸社）、『眞道ぐ心行け』（昭和十二年五月二十日

育生社）、『全體主義政策・綱領』（杉森孝次郎共

編著、昭和十四年二月二十日育生社）、『日米危機

とその見透し』（末次信正合著・宮内專編、昭和十



六年二月、二十一年新經濟情報社「政経懇話會叢書」）、『新しき政治
 の方向』（昭和十六年九月五日、改訂版・二十五日東方會宣傳部）、
 『ルーズヴェルト、日本國民の答へ』（昭和十六年十月五日東方會宣
 傳部）、『戦争の勝利の政治』（昭和十七年二月二十五日東方會。再刊
 ・十八年七月、二十日武蔵野書房）、『大隈秀吉』（昭和十八年一月一
 十五日東方同志會出版社）等。
 文獻心、三田村武夫著『中野正剛は何故自刃したのか？』（昭和二十五
 年一月十五日武蔵野出版社）、緒保敬太郎著『宿命の中野正剛と日本
 軍閥』（昭和二十六年十一月十五日民主制度普及會）、緒方竹虎著
 『人間中野正剛』（昭和二十六年十一月、二十日總書房。再刊・二十一
 年四月、二十日總書房）、正剛会編『中野正剛は生きてゐる』（昭和
 二十九年六月一日あけぼの社）、中野泰雄著『父・中野正剛伝』（昭
 和三十三年二月、二十七日新光閣書店）等。

